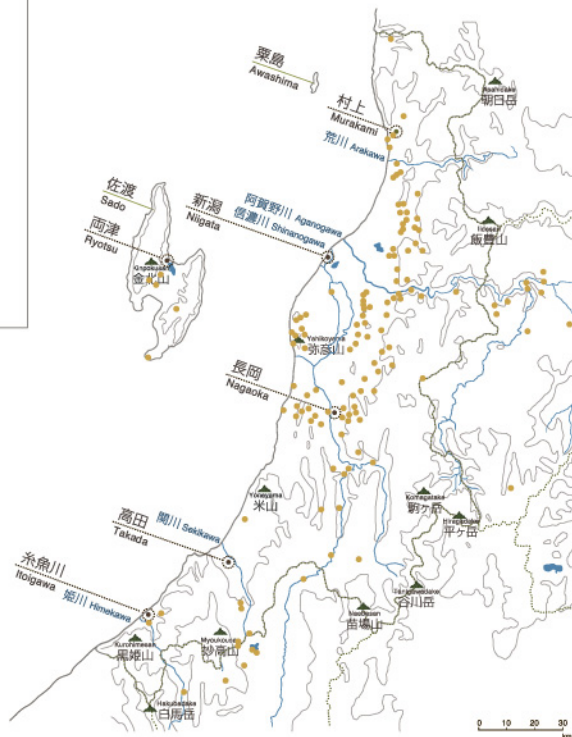




キタコブシ

Magnolia kobus var. *borealis*
〈モクレン科〉

コブシ (*M. kobus*) の変種で、北海道～本州中・北部の日本海側に分布する。コブシの葉が長さ15cm、幅6cmほどであるのに対し、キタコブシは長さが20cm、幅10cmとひと回りほど大きく、質はやや薄い。コブシと同様、4月に葉の芽吹きに先立って花が咲く。同属のタムシバに似るが、コブシと同様、花の下に葉がつく点で見分けられる。秋口、木のまわりに赤く、げんこつのようなごつごつしたこぶのある実が落ちているのを見つけることがあるが、コブシの名の由縁といわれる果実である。 (林 寛子)



新潟県内の分布 (新潟県植物分布図集第1集1980より転載)



県民の皆様に生まれ
10周年を迎える
県立植物園

(財)新潟県都市緑花センター
県立植物園 園長 笠井 登

新潟県立植物園は平成10年12月に開園し、今年で10周年を迎えます。

開園当初は、保有植物数も800種程度でしたが、その後多くの皆様のご努力で「ツバキ園」「ボタン園」「ツツジ園」などの整備も進み、現在では保有植物数も3,000種を超えるまでになっています。

特に、ツツジ属のコレクションは世界有数で約730種類を有するまでになり、また国内ではほとんど例のないアフリカバオバブの開花など、植物園として充実してきました。

また、調査・研究なども、県内絶滅危惧種のオキナグサなどの保全に関する調査研究や、全国の植物園と連携した絶滅危惧植物の保全活動なども積極的に行っています。

今年の記念すべき10周年に、日本で最初のシーボルト植物の里帰り地である当園に、開園当初からの思いである、里帰り植物を植樹できればと考えています。

指定管理者といたしましても10周年を迎えられることは、県民の皆様はじめ、関係機関、地元花卉生産者、ボランティア、植物園友の会など多くの方々から育てていただいたお陰だと厚く感謝を致しております。

今後も、より一層県民の皆様から親しんで頂ける管理・運営を目指したいと思っており、これからも皆様方の暖かいご支援、ご指導のほどよろしくお願いたします。

12月1日に満10歳を迎える今年、 当園ではさまざまな 催し物を予定しています。

チューリップまつり●4月中旬

約2万本のチューリップがエントランス広場で皆さんをお出迎えます。

植物園まつり●5月3日(土・祝)、4日(日・祝)

「植物園の裏側を探検!バックヤードツアー」や園芸市、食品販売など

「植物園の日」イベント●5月4日(日・祝)

植物に関するシンポジウムと県内の活動を紹介するパネル展示を行います。

ボタンまつり●5月中旬

約200品種1,500株のボタンが咲き誇ります。

ワンコイン入館デー●6月1日(日)

日頃のご愛顧に感謝して大人の入館料を100円に。

当日は無料エリアの屋外で「にいつ花ふるフェスタ」(主催:新津観光協会)も開催されます。

上記のほか、8月には早朝開園や夜間開園、秋には10年を振り返る回顧展や記念イベントも企画しています。



企画展示



シャクナゲの園芸品種



ツツジの園芸品種

平成20年4月9日(水)-6月1日(日)
シャクナゲとツツジ
～庭園樹への道のり～

ツツジ科ツツジ属に分類されるシャクナゲとツツジ。どちらも日本に原産し、現代では、数々の園芸品種がつくられ、栽培されています。しかし、江戸時代から園芸化され、現代でも身近な植物となっているツツジ、なかなか園芸化されなかったシャクナゲ、というようにその経緯は異なります。この展示では、シャクナゲとツツジの自生地や性質、現代に至るまでの道すじをたどります。

華やかなシャクナゲや古くから親しまれるツツジの雰囲気をいかした装飾が温室を彩ります。また、シャクナゲ・ツツジの野生種の紹介も行います。シャクナゲ生産量日本一という新潟県、そして世界に誇るツツジ属植物のコレクションをもつ当園ならではの展示をお楽しみください。

平成20年6月4日(水)-7月21日(月・祝)
アジサイ展

私達がよく目にするアジサイは、ガクアジサイや手まり状のホンアジサイですが、花序がピラミッド状のカシワバアジサイやノリウツギ、つる性のアジサイなど一概にアジサイといっても多くの種類があります。今回の展示では、アジサイ属の野生種や華やかな園芸品種、また最新品種を紹介します。

また、江戸末期に来日し、日本から多種の植物をオランダへ持ち帰り、中でも特にアジサイを好んだドイツの医師フォン・シーボルトとアジサイについて紹介します。シーボルトが持ち帰った植物のうち、十数種はオランダのライデン大学附属植物園に保存されており、ケヤキ、フジなど数種が当園に寄贈されています。シーボルト植物の里帰り場所として国内初の当園でそれら植物をご覧いただけます。

見る楽しみだけでなく、アジサイを様々な角度から知ることができる展示です。

6月29日には、東京大学名誉教授 大場秀章先生と群馬県農業技術センター 工藤暢宏先生に、アジサイに関する内容で、ご講演いただきます。

企画展示



‘マリンブルー’



日本に自生するエゾアジサイ



ガクアジサイ‘城ヶ崎’

講演

6月29日(日) 13:00～15:00

大場秀章(東京大学名誉教授)
「シーボルトとオタクサ」

工藤暢宏(群馬県農業技術センター)

「夢のアジサイをつくる
ーバイオテクノロジーで育成する新品種ー」





タイワンバナナ (*Musa acuminata*)



ムサ・ピオラセア (*Musa violacea*)



バナナの野生種 (ボルネオ島)



芭蕉の生家のバショウ

→ 温室 バナナ

熱帯植物ドームの滝を抜けた右のエリアには、ゴレンシやヒョウタンノキなど、人気の熱帯の果樹が多く植えられています。まず目に付くのは大きな葉を広げるタイワンバナナです。

このバナナは果実を食用にする種類で、高さは4m以上になりますが、木ではなく草の仲間です。葉は地下の茎から直接地上に出ており、葉の柄の部分が重なって幹に見えます。

バナナの花は葉の重なった中心から伸びてきます。先端の大きな水滴形なのが花序と呼ばれる花の集まりです。苞(ほう)とよばれる紫色の葉が変化したものが花を保護していますが、夜に

なるとその苞がめくれ、黄色い花が顔を出します。花には多くの蜜が含まれ、自生地ではコウモリの仲間が花粉を媒介します。花序が上向きに咲く種類もあり、それらは昼に開花し、鳥の仲間がやってきます。食用の栽培品種には種子がありませんが、野性のバナナには種子があります。種子のないバナナは突然変異で生まれ、紀元前数千年前のかかなり古い時代から栽培されています。

バナナの仲間であるバショウ属は約40種が世界に分布します。日本には、栽培バナナの原種でもあるリュウキュウイトバショウが沖縄や奄美大島に自生し、芭蕉布などとして利用されています。そのほか、東北まで自生し、俳人、松尾芭蕉の名前の由来となったバショウが生育します。

(久原泰雅)



シデコブシ 'キングローズ' (*Magnolia stellata* 'King Rose')



モクレン属 '福寿' (*Magnolia* 'Fukuju')



タムシバ (*Magnolia salicifolia*)



宿根草花壇

→ 園地 モクレンの仲間

モクレンの仲間は、木本植物の中でも比較的大きな花を咲かせます。春の花といえばサクラを思い浮かべる方も多いと思いますが、モクレンの仲間の花も見ごたえがあります。モクレンの花をよく観察すると、花軸を中心に多数の雄蕊、雌蕊、花被が螺旋状に並んでいます。このような花の形状をしたものは、系統学では原始的なものとい

われています。また、古い地層(白亜紀)から化石が発見されていることから、モクレンの仲間は恐竜がいた古い時代から存在していたことがわかります。

園内には、タムシバやシデコブシ、ハクモクレンなどのほか、宿根草花壇には、'サヨナラ'、'福寿'などの園芸品種が植栽してあり、春に咲く大きな花は独特の存在感があります。目で楽しむだけでなく、'福寿'の花には、芳香があり、近くによるとバラのような香りが漂ってきます。(橋本 永)



seedPod (iPodを使った植物解説システム)

NEWS 1

seedPodでの解説をはじめました!

(温室ガイダンスシステム:愛称シーポ)

当園では、熱帯ドームで「植物探検ツアー」を展示温室でボランティアによる解説を行なっていますが、さらに携帯型音楽プレーヤー (iPod) による植物の解説をはじめました。

seedpod (シードポッド、愛称シーポ) とは、豆がさやに入っているように、プレーヤーの中に植物園の情報がぎっしり詰まった「豆のさや (seedpod)」をイメージしたものです。

温室入館受付カウンターで「seedPodを借りたい」と伝えていただければ、無料でお貸しいたします (但し、身分証明書が必要となります)。

iPodをお持ちの方はホームページ上からデータをダウンロードできますので、是非ご利用下さい。
(久原泰雅)

NEWS 2

植物園の情報をラジオでオンエア

今年1月からラジオチャット (エフエム新津) で当園の情報コーナー「緑の夢王国」の放送がスタートしました。温室案内員フローラルハートが催し物情報や展示植物の紹介、植物にまつわるお話などをお届けしています。生放送中はパーソナリティの桐生さんから質問が飛び出すなど楽しく和やかな雰囲気。あつというまの10分間です。ランチタイムのひとつ、ぜひお楽しみ下さい。当園の旬の情報をどうぞお聴き逃しなく。
(大谷史絵)



ラジオチャット (エフエム新津) 76.1MHz
毎週水曜「なじらねラジオ」内 (12:23~)

『緑の夢王国』コーナー

<http://www.chat761.com/index.html>



NEWS 3

エントランス花壇がいっそう華やかに

昨年の11月23日の午後、にいがた花絵プロジェクトの皆さんとエントランス花壇にチューリップ球根の植栽を行いました。今年のゴールデンウィーク前後には、チューリップの花でいっぱいになることと思います。ご協力ありがとうございました。

チューリップの開花後は、新津商工会議所の方々とボランティア、地域のみなさんと一緒に、ペチュニアやヒマワリを植栽する予定です。

エントランス花壇がいっそう華やかに、そして一年を通して草花が楽しめるエリアしていきたいと思っています。

(橋本 永)

新潟の植物

雪割草 (オオミスミソウ)

Hepatica nobilis var. *japonica* f. *magna*



サクラソウ科の *Primula modesta* もユキワリソウという和名をもっており、混同されることも多いため、漢字で「雪割草」と表記します。どちらとも、雪がまだ残る早春に雪を割るように花を咲かせることからついた呼び名です。

雪割草はキンポウゲ科ミスミソウ属の総称で、アジア、アメリカやヨーロッパに自生しています。ヨーロッパに分布する *Hepatica nobilis* の変種として、四国や九州に分布するミスミソウ、山形県から北陸にかけての日本海側に分布する葉が大型のオオミスミソウ、本州と四国に分布するスハマソウなどがあります。新潟県に分布の多いオオミスミソウは、花の色や葉の形などの変異が多く、雪割草の園芸品種はこの種を元に改良されたものがほとんどです。

3月1日に県の草花に指定された雪割草。国内最大の自生地であり、質・量ともに全国一を誇る新潟県にとっては、観光や園芸産業の活性化につながるだけでなく、雪割草を守り育ててきた自然環境保護への取り組みが国際的にも大きな意味を持つことが期待されます。

(永井明子)

新潟の天然記念物

大積の大ツツジ



新潟県指定文化財・天然記念物 (昭和27年指定)
長岡市大積 (問合せ先 長岡市観光課 0258-39-2221)

大ツツジは、公園にも良く植えられている白色大輪のツツジの園芸品種‘白琉球’で、かつては単に「琉球」と呼ばれていました。株の周囲20mもの「大ツツジ」の開花期 (5月20日前後) には白い花とともに、周囲は甘い香りに包まれます。

白琉球が文献にはじめて現れるのは、伊藤伊兵衛による「地錦抄付録」(1733)で、「正保年中(1644-47)以降渡り来ル草木ノ類」に「琉球躑躅」の名が見えますので、この頃に琉球 (もしくは本州西部から九州) から江戸に入ったと考えられます。当園のこれまでの研究からは、‘白琉球’の起源は、中国、四国、九州 (大分) の

川岸に生えるキシツツジの白花であると推定されています。

本県においても、寺泊出身の丸山元純の著した「越後名寄」(1756)に、琉球躑躅が昔からよく庭に植えられたことが記されていることから、古くから栽培されたことがうかがえます。

1819年には、‘白琉球’はイギリスに渡り、ベルギーで数々のツツジと交配され、「ベルジアンアザレア」(一般に言うアザレア)が誕生しています。

日本のツツジの長い歴史を知り、「大つつじ」を觀賞することで一層の興味がわくのではないのでしょうか。

(倉重祐二)

友の会通信

昨年度は会員数が増え、199名となりました。活動としては、旅行や観察会などさまざまなイベントを行ったほか、「富樫信平・植物画展」など会員からの情報提供により、植物園での展示につながりました。

会員による展示

植物園が新潟市新津美術館と共催で行った富樫信平の植物画展は、会員の高橋務さんの情報提供がきっかけで、開催できました。また、「植物園の日」のパネル展示や「帰化植物展」には木村彰さんに、「トキ切手展」には高橋仁さん、「田上町の植物」には高橋務さん、「にいがたの野生ラン写真展」には清水尚之さんの協力を得て展示を行いました。今後も、会員の活動を植物園で紹介する機会が求められれば、会として協力していきたいと考えています。



ラン切手展



富樫信平植物画展



湯沢植物観察会



クリスマス交流会

今年度の活動予定

- 総会〈5月4日(日)〉
植物園のボタンが開花する時期に行います。役員決定や会の決算、今年の計画などを行うほか、試食会も開催します。
- 春の視察旅行〈6～7月〉
会員の顔合わせを兼ね、大型バスで県内外の植物園や研究施設への日帰り施設見学を行います。
- 夏の植物観察会〈8月〉
湯沢町へ一泊の植物観察会を行っています。宿泊先の和田小屋では、おいしい食事のほか、満天の星空が楽しめます。

●キノコ観察会と試食会〈10月〉

植物園の秋まつりにあわせて、キノコ観察会とそれらを使った試食会を開催します。キノコの見分け方やキノコを見つけるポイントなども教わることができます。

●秋の植物観察会〈10月〉

石沢会長の故郷である柴村を中心に一泊の植物観察会を行っています。紅葉の絶頂期であるだけでなく、キノコなどの味覚も盛りだくさんです。

●クリスマス交流会〈12月〉

植物園のクリスマスイベントに合わせて交流会を行います。植物交換会やその年の活動報告を行うほか、交流会の最後に、温室内で開かれるクリスマスコンサートを聴きに行きます。

今年度も更なる活動を期待しておりますので、よろしく願いいたします。

新潟県立植物園 友の会

友の会会員を常時募集しておりますので、植物園までお問い合わせください。

会員特典

- 観賞温室入館料無料
- 植物園だより、友の会ニュースレター、各種イベント案内の送付
- 研修旅行、企画旅行などイベントへの参加

年会費〈4月より翌年3月まで〉

- 個人会員 2,000円
- ファミリー会員(同居の家族は何人でもご利用できます) 2,500円
- 賛助会員 一口 10,000円

花と緑の教室

会場(集合場所):花と緑の情報センター 2階研修室

参加希望の方は事前に電話でご予約下さい。受付は開催日の1ヶ月前からです。

4月6日(日) 10:00~12:00 ●「ツバキ・花後の管理」

講師:石井たき(新潟県花つばき協会) 定員:30名 参加費:無料

4月13日(日) 10:00~11:30 ●「ボケの栽培」

講師:加藤政明(明花園芸) 定員:30名 参加費:無料

4月17日(木) 10:00~11:30 ●「雑草観察会①」

講師:田中良明(県立植物園植物課長) 定員:20名 参加費:無料

4月19日(土) 10:00~11:30

●「チューリップと春の花でアレンジメント①」

講師:佐藤 忍(ぐりーんはうす三越店 代表) 定員:20名 参加費:1,300円

4月27日(日) 10:00~11:30 ●植物基礎講座「園芸を楽しもう」

講師:片山 芳宣(植物園専門相談員) 定員:20名 参加費:無料

5月8日(木) 10:00~11:30

●「ツツジ・シャクナゲの楽しみ方いろいろ」

講師:倉重祐二(県立植物園副園長・NHK「趣味の園芸」講師)

定員:15名 参加費:温室入館料

5月11日(日) 13:30~15:00 ●「ボタンの品種紹介と育て方」

講師:芝沢成広(ボタン研究家) 定員:30名 参加費:無料

5月18日(日) 10:00~11:30 ●植物基礎講座「花壇づくり」

講師:永井明子(県立植物園職員) 定員:20名 参加費:無料

5月25日(日) 10:00~11:30

●「バラの育て方①春から夏にかけての管理のポイント」

講師:佐藤七郎(新潟ばら会副会長) 定員:30名 参加費:無料

6月8日(日) 13:30~15:00 ●「クレマチスの育て方」

講師:鈴木 光一(日本クレマチス協会会員) 定員:30名 参加費:無料

6月12日(木) 10:00~11:30 ●「雑草観察会②」

講師:久原泰雅(県立植物園職員) 定員:20名 参加費:無料

6月19日(木) 10:00~11:30 ●「マツの剪定」

講師:田中良明(県立植物園植物課長・樹木医) 定員:20名 参加費:無料

特別講演 ●6月29日(日) 13:00~15:00

「シーボルトとオタクサ」 講師:大場秀章(東京大学名誉教授)

「夢のアジサイをつくる—バイオテクノロジーで育成する新品種—」

講師:工藤暢宏(農学博士・群馬県農業技術センター)

定員:80名 参加費:無料

information

図書のご案内 温室発券カウンターにて販売しています。



「里山の植物」

2,000円

新潟丘陵に植生する植物の図鑑。約800種の豊富な里山の植物の魅力を再発見。



「ようこそ緑の夢王国」

新潟県立植物園

1,200円

新潟日報夕刊に連載された内容をまとめた一冊。植物に親しみきっかけに、植物園観賞のお供にぜひいかがですか。

観賞温室利用案内

開館 ●9:30~16:30 (入館締切16:00)

入館料 ●大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円

※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

観賞温室開館カレンダー (●休館日)

4							5							6						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
●	●	1	2	3	4	5	●	●	●	●	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30	●	●	●	25	26	27	28	29	30	31	29	30	●	●	●	●	●

交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路 ●磐越自動車道新潟ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分

一般道路 ●(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分

JR ●信越線古津駅から徒歩約20分

バス ●区バス:新潟駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分

●新潟交通:新潟駅東口から「矢代田経由白根・潟東営業所」行き

「新潟美術館入口」下車徒歩約10分

展示

観賞温室第2室 企画展示

●4月6日(日)まで「早春を彩るにいがたの花 チューリップ展」

●4月9日(水)~6月1日(日)

「シャクナゲとツツジ~庭園樹への道のり~」

●6月4日(水)~7月21日(月・祝)「アジサイ展」

観賞温室第3室 住宅内展示

●4月12日(土)まで「チューリップ花絵原画展」

出展:にいがた花絵プロジェクト

●4月15日(火)~5月6日(火)「地域の生産者による展示」

●5月8日(木)~5月25日(日)「アルプスの植物写真展」

出展:高橋 務

特別展示

●4月4日(金)~4月6日(日)「春の大つばき展」

花と緑の情報センター

●6月4日(水)~6月8日(日)「クレマチス展」

観賞温室第3室2階

●6月17日(火)~7月13日(日)「帰化植物展」

観賞温室第3室2階

5月3日(土)・4日(日・祝) 春の植物園まつり

植物園の裏側をご案内するバックヤードツアー、園芸市、食品販売など

5月4日(日・祝)「植物園の日」イベント

植物に関するシンポジウムと県内の活動を紹介するパネル展示を行ないます

6月1日(日) ワンコイン入館デー

大人の入館料が100円に

屋外エリアでは「にいつ花ふるフェスタ」(新潟観光協会主催)が開催されます

わくわく植物探検ツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。解説付きの見学は満足度倍増! ぜひご参加下さい。

●10:40~

●14:40~(土・日・祝は13:40からも実施します)

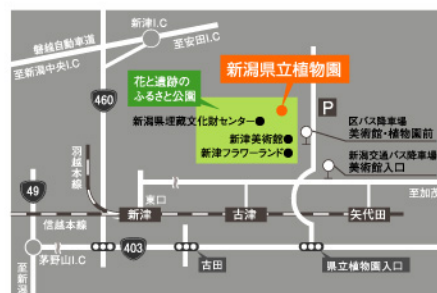
当日温室発券カウンターにて受付(定員制)

花と緑の相談コーナー

相談コーナーが観賞温室内へ移動しました。専門相談員がわかりやすくお答えいたします。

●ご相談は、直接、相談コーナーへ
もしくは
TEL0250-24-6437へ

●相談受付日:毎週水曜日、日曜日
※なるべく水・日曜日にご相談ください。



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地

TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410

Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp

ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/

指定管理者 財団法人 新潟県都市緑花センター



登録範囲は、事務局、鳥屋野
潟公園事務所、農業寺記念
公園事務所、県立植物園です。



大豆インクで印刷しています。